

紙芝居台本

※この台本を参考に、紙芝居を作成

<ちひろ>

あるところに太郎くんという男の子がいました。太郎くんはこれからクラスでドッチボールの試合をします。試合をすることは1週間前から知っていました。太郎君はドッチボールをするのが大好きで負けず嫌いな男の子なので、今日まで試合をものすごく楽しみにしていたのです。ところが、太郎君は試合のなかでボールを当てられてしまい、その上太郎くんのチームは負けてしまいました。すると太郎くんは悔しくて相手チームのお友達に、「ばか！うるせー！」などと大きな声を出して、けんかになってしまったのです。

<びーちゃん>

なぜこうなってしまったのでしょうか？どうしたら、違った結果になったのでしょうか？

実は太郎君は、負けて悔しい気持ちをどの様に相手に伝えればいいのかわからなかったのかもしれない。

太郎君のように、悔しい気持ちを上手く表現できない友達には実際にいます。学校でみんなと一緒に行動が苦手な友達。自分の気持ちを言葉に表すことが苦手な友達。謝りたいとき、「ごめんなさい。許してくれるかな？」と素直に言えたらいいですよ。でも、謝りたい時に「ごめんなさい」と言うことは意外と難しいのです。

なので、もし、友達の誰かが自分の気持ちを上手く伝えられなくて、いきなり嫌な言葉で怒鳴ったり、困らせるようなことした時には、「やめて」「そういうことすると、私は悲しいよ」とはっきり気持ちを伝えてください。でも、「何にも分からない子だな。」と決めつけて、「向こうに行け！」「なんだよ！」といきなり怒ったりしないでね。自分の気持ちを上手く伝えられない時には、すぐにカッと感情的になるのではなく、深呼吸を3回してください。それから、嫌な気持ちになることをゆっくりと伝えてください。また、落ち着いてその子のお話を聞いてもらえると嬉しいです。でも、うまく子ども同士で話せないときには、すぐに先生や大人の人に助けを求めてください。先生達も、みんながうまくやっけていけるようにお手伝いしたいと思っています。

<なつみ>

言葉の引き出しを開けられない、これが太郎君の「苦手なところ」です。

みんなの中にも、図工は好きだけど算数は苦手とか、体育は好きだけど理科は苦手とか、いろいろ得意なこと、苦手なことがありますよね。同じように、太郎君は言葉の引き出しを開けるのが苦手なので、本当に言いたいことが言えずに「うるせー」「ばか」と言ってしまったのですね。

（以後口頭風に）

太郎君には、実は分かりやすい言葉で話したり、話しかけたりすると、うまく言葉の引き出しを開けることができます。分かりやすい言葉ってどういう言葉かな？「ボール」「ブランコ」「チームワーク」「がんばる」という言葉から、その絵を思い浮かべてみてください。「ボール」「ブランコ」は描きやすいけど、「チームワーク」や「がんばる」って絵は簡単に書けるかな？・・・難しいよね。つまり、ぱっと絵が思い浮かぶ言葉が「分かりやすい言葉」ということなんだね。太郎君は頭の中で絵や写真を思い出して考えることが多いのです。耳で聞いて考えるよりも、目で見るほうが、分かりやすいことが多いのです。

太郎君のような人は、みんなの助けが必要です。

そう聞くと、何か特別な人のように感じるかな？病気と違って、助けが必要な子は、家でゆっくりしていると熱が下がって治り、助けがいらなくなるわけではありません。みんなと一緒に暮らしていく中で、いろいろな事を少しずつ勉強して、みんなと暮らすことに慣れていくことができます。みんなと少し違うから「変だなー」と感じたり、「なんでそんな事をするんだろう」と思うことがあるかもしれませんが、でも、みんなの助けがあれば、一緒にやっていくことができるのです。足の不自由な人が車いすを使い、近眼の人が眼鏡をかけるように、助けが必要な子には、まわりの人の言葉や気持ちがとっても大きな助けになります。みんなと一緒に学校生活を送るなかで、助けが必要な子たちも少しずつ言葉や、ルール、マナーを身につけて大きくなっていきます